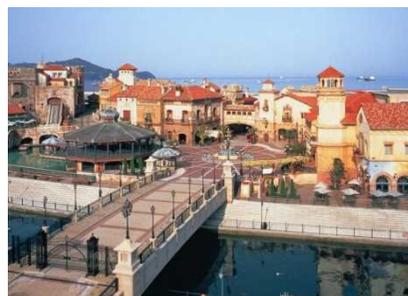


IR

和歌山県 I R 基本構想

～ 和歌山県が目指すリゾート型 I R 構想について ～



1 I R（統合型リゾート）とは

2 和歌山が目指すリゾート型 I R

3 なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか

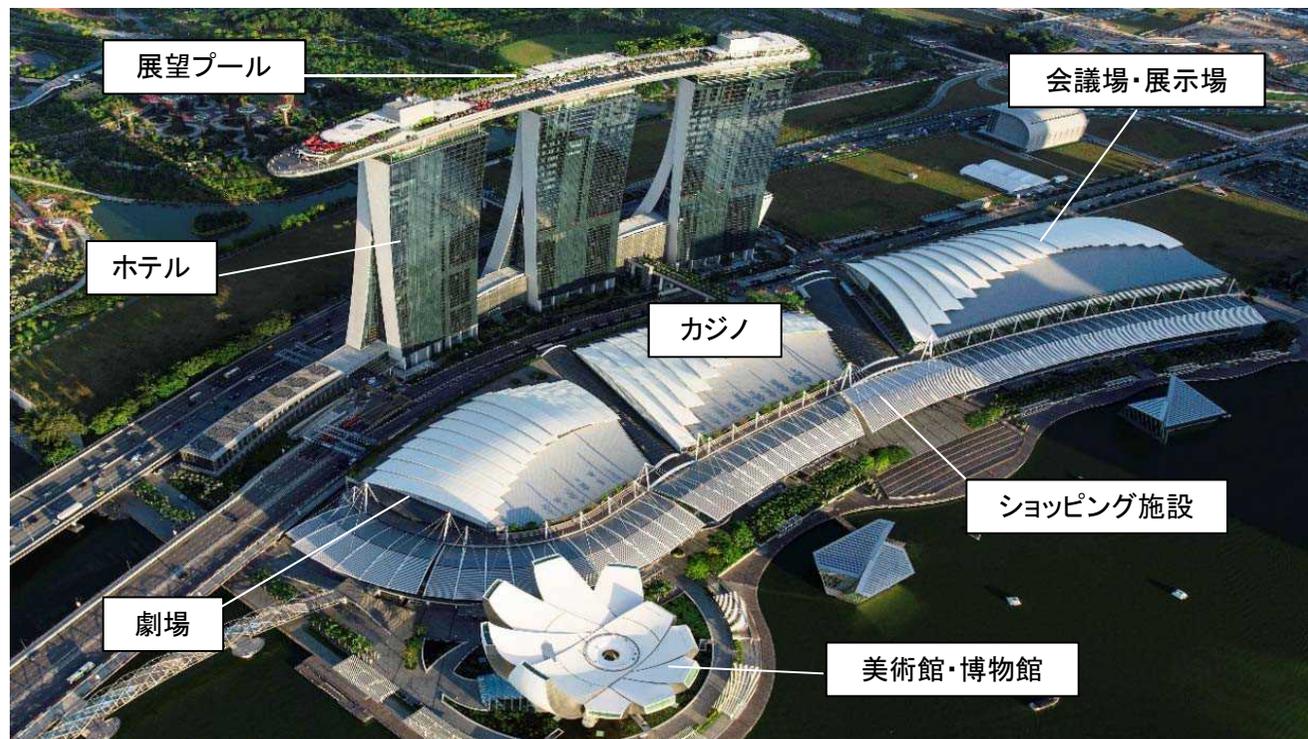
4 I R による課題と対策

5 今後のスケジュール

I R（統合型リゾート）とは

I R（Integrated Resort）とは

- 単なるカジノホテルではなく、様々な施設（※中核施設）が一体となった複合的な観光集客施設
- 日本で認められるカジノ施設の規模は、I R施設の延べ床面積3%以下
- 民間事業者により設置・運営される（民設民営）
 - ➔ 徹底的な背面調査が行われ、クリーンな企業のみが日本で事業を行うことができる



※中核施設とは

- ・国際会議場施設、展示場施設、劇場・美術館・博物館等、国内の旅行を提案・アレンジする施設、ホテル等

写真： シンガポール マリーナ・ベイ・サンズ

I R（統合型リゾート）とは （諸外国のI Rの効果事例）

大規模な民間投資の実現

■シンガポール

- マリーナ・ベイ・サンズ : 約4,870億円
- リゾート・ワールド・セントーサ : 約5,220億円

■マカオ

- スタジオシティ : 約3,870億円

経済効果が波及している例

■シンガポール

- I R開業4年で、国全体の観光客数が6割、観光収入が9割増加
- カジノ施設の収益により財政改善に寄与
➡2016年度のカジノに係る税収が約2140億円

地域にもたらす経済的恩恵

	マリーナ ベイサンズ (シンガポール)	クラウン エンターテイメント コンプレックス (オーストラリア)	ソレア リゾート&カジノ (フィリピン)
開発 費用	約4,870億円	約1,400億円	約1,200億円
雇用 者数	約9,500人	約9,200人	約5,600人
売上額	約3,200億円	約1,670億円	約700億円
入場 者数	約4,500万人	約1,700万人	約730万人

建築資材等の
優先的な地元調達

優先的な
地元雇用

税収の増加

交流人口・
観光消費額の増加

(本県調べ)

I R（統合型リゾート）とは（国の方針）

国が目指す I R の姿

○カジノを加えた I R 施設を一体として整備することにより、滞在型観光の実現、地域経済の振興、財政の改善や、我が国の経済社会の更なる発展、国際プレゼンスの向上等の公共政策上の目標を達成する

I R 区域の認定制度について

区域認定数	3か所を上限として法定
中核施設の要件・基準	我が国を代表することとなる規模等
地域における合意形成	立地市町村の同意及び公聴会の開催が必須
開業までのプロセス	<ol style="list-style-type: none">① 都道府県が民間事業者を公募により選定② 都道府県と民間事業者が計画を共同で作成③ 都道府県知事が国土交通大臣に計画を申請④ 国土交通大臣が計画を認定

日本人に対するカジノ規制について

入場回数制限	7日間で3回、及び28日間で10回
本人・入場回数確認手段	マイナンバーカードを用いた本人確認
入場料	6千円（国：3千円 県：3千円）
依存症対策	日本人は現金のみ使用可（クレジットカードの使用は不可） 本人及び家族からの申告による利用制限措置を事業者に義務付け

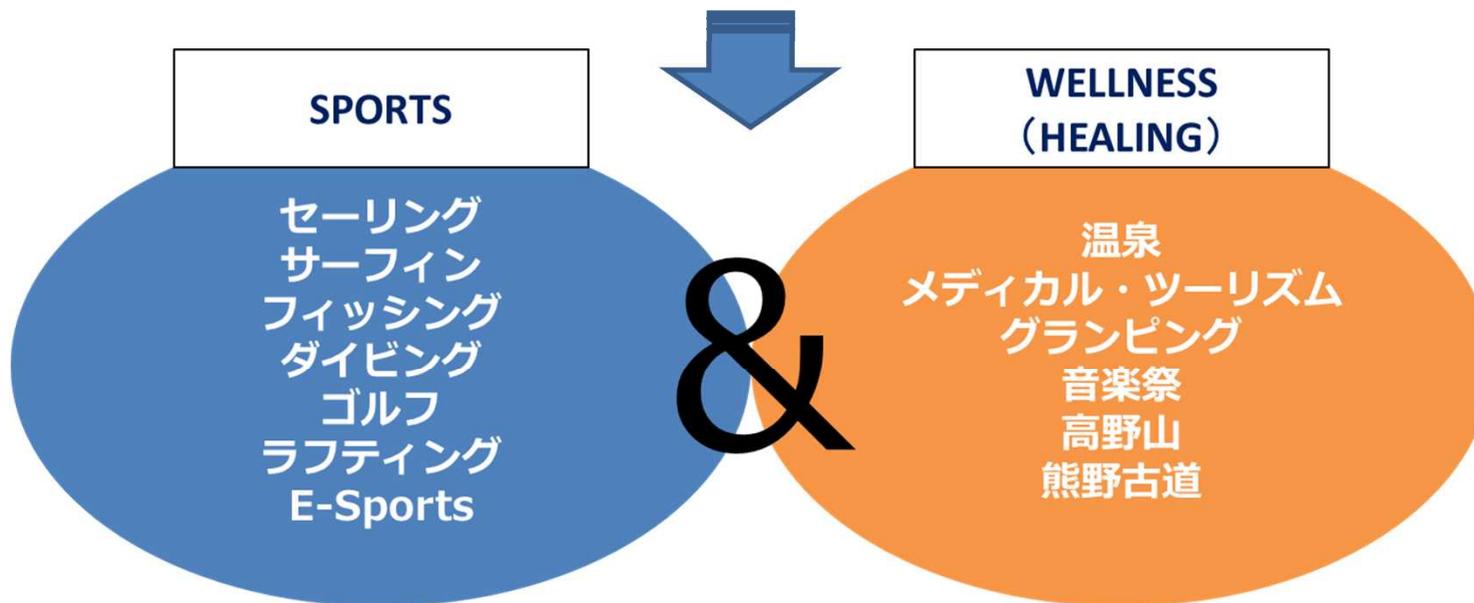
I R（統合型リゾート）とは（まとめ）

- I Rは単なるカジノ施設ではない
- I Rは雇用や経済波及などを創出するほか、観光振興にも寄与し、地域活性化につながる複合観光施設
- I Rの設置・運営により2030年に、訪日外国人旅行者数6,000万人、旅行消費額15兆円を目指すという政府目標を強力に後押し



- 1 I R（統合型リゾート）とは
- 2 **和歌山が目指すリゾート型 I R**
- 3 なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか
- 4 I R による課題と対策
- 5 今後のスケジュール

多種多様な観光資源を 背景にしたリゾート型 I R



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト①)

○海外の V I P も宿泊可能なラグジュアリーな5つ星ホテル



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト②)

○エクセレントカンパニーの取締役会や、国際的な学会や会議
が開催可能な**会議場**や**講演会場**



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト③)

- 世界で評価の高い和食を中心としたレストラン街や関西圏の伝統工芸品・名産品を集めた高規格ショッピングモール



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト④)

○世界規模のスポーツ大会やe-Sports大会、ミュージックイベント等が誘致可能な**全天候型アリーナ施設**



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト⑤)

- V R 技術などを活用した体験型のゲーミングシアター施設や観光スポットを疑似体験できる観光シアター施設



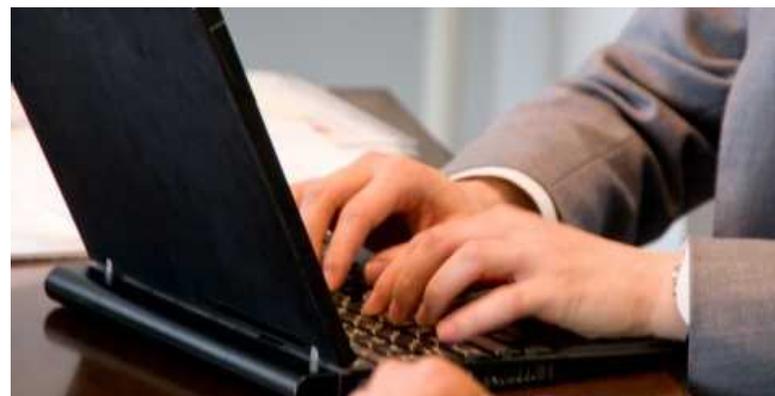
和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト⑥)

○休暇を取りながら仕事ができるワーケーションの拠点



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト⑦)

○県内観光地への予約・移動等が全て**ワンストップ**で対応可能な**ツアーデスク** (多言語対応可能なコンシェルジュの常置)



和歌山が目指すリゾート型 I R (コンセプト⑧)

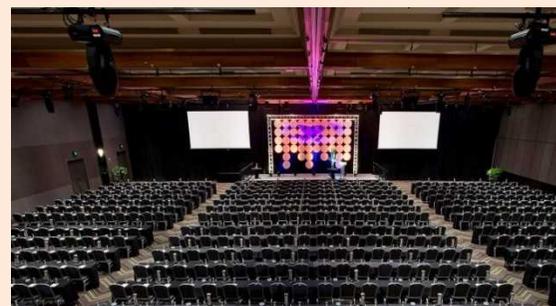
○フルーツを中心とした、**高価格帯の県産品を世界に発信**する施設



和歌山が目指すリゾート型 I R (海外の I R 例①)

地区	オーストラリア ゴールドコースト	人口	国際空港からのアクセス	設備概要
		約58万人	ゴールドコースト空港から車で約30分	カジノ：ゲームマシン1400台以上 ホテル：596室（今後1400室まで拡大） コンベンション：最大2300名収容

施設外観・内観



和歌山が目指すリゾート型 I R (海外の I R 例②)

地区	フィリピン パラニャーケ	人口	国際空港からのアクセス	設備概要
		約65万人	ニノイ・アキノ空港から 車で約15分	カジノ：ゲームマシン1800台以上 ホテル：800室 劇場：1760席

施設外観・内観



和歌山が目指すリゾート型 I R (和歌山マリーナシティの立地)

「絶景の宝庫」として日本遺産に認定された和歌浦湾に位置するマリーナシティ周辺には、マリンレジャーやマリンスポーツの拠点、景観や歴史・文化を感じることができるスポット、新鮮な海産物など様々な魅力がそろっている。



和歌山が目指すリゾート型 I R (和歌山マリーナシティ周辺の美しい景観)



和歌山が目指すリゾート型 I R (和歌山マリーナシティへの交通アクセス)

京阪神とのアクセス

○電車

大阪・奈良まで約60分
京都・神戸まで約90分

○自動車

大阪まで約60分
京都・神戸まで約90分
京奈和自動車道・第2 阪和国道の開通、さらに、近畿自動車道紀勢線の延伸や、すさみ串本道路、新宮紀宝道路の整備も進められており、県内観光地へのスムーズなアクセスが可能。



《今後の取組》

ストレスフリーで移動できる交通アクセス構築

大都市圏のターミナル等からの直結バスルートの新設の促進及び一次交通の拠点と二次交通の円滑な接続を図るため、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど観光客のニーズに応じた移動手段をスムーズに利用できる環境整備を促進

和歌山が目指すリゾート型 I R (候補地：和歌山マリーナシティ)



- ➡1994年に竣工した人工島。全域整地造成済なのですぐに着工が可能 (ゆえに早期の投資回収が可能) ※2016年度の年間来島者数は約300万人
- ➡敷地面積は40ha / I Rとしての活用部分は20.5ha (赤囲み部分)
- ➡セーリングのナショナルトレーニングセンターが設置され、世界大会が開催されるなど、日本屈指のセーリングスポット (東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた選手強化を実施中)
- ➡最大130ftの船が停泊可能なヨットハーバーを備える (海上係留約220隻/陸上保管約280隻、関西でも数少ないコンクリート栈橋を整備済み)
- ➡関西国際空港からの高速船の乗り入れや、和歌山港に寄港するクルーズ船からのシャトルシップなど、海上ルートの活用が可能
- ➡周辺に多くのインターチェンジがあり、車でのアクセスは良好
※一方で、事業者からマリーナシティ以外の候補地について提案があれば、それも検討

和歌山が目指すリゾート型 I R (事業の可能性)

国際会議場・展示場施設を集客施設としつつも、事業採算性を高めて魅力ある投資案件とする観点から、I Rの主要施設として、ラグジュアリーホテル・多目的アリーナ等・ツアーデスク・駐車場を想定

【前提条件】

○ラグジュアリーホテル

ホテル客室数2,500室を有するハイグレードなラグジュアリーホテルを想定。なお、カジノはラグジュアリーホテル内への設置を想定。

○国際会議場・展示場施設

多機能アリーナやハイグレード会議室が含まれる50,000㎡の施設を想定。

○その他施設

魅力発信施設、ツアーデスク、駐車場を想定。

大阪と和歌山にIR
ができた場合、相
乗効果がある

IR事業者

事業性分析の結果要約

想定されるIRの規模	
敷地面積	205,000㎡
延床面積	457,183㎡



投資額	2,799億円
投資回収年数	8.7年

事業性分析の結果、数年で投資回収が可能ことから、本県におけるI Rの運営は十分な事業性を見込むことができる

- 和歌山 I R は
多種多様な観光資源を背景にした
リゾート型 I R



※和歌山マリーナシティへの I R 設置イメージ

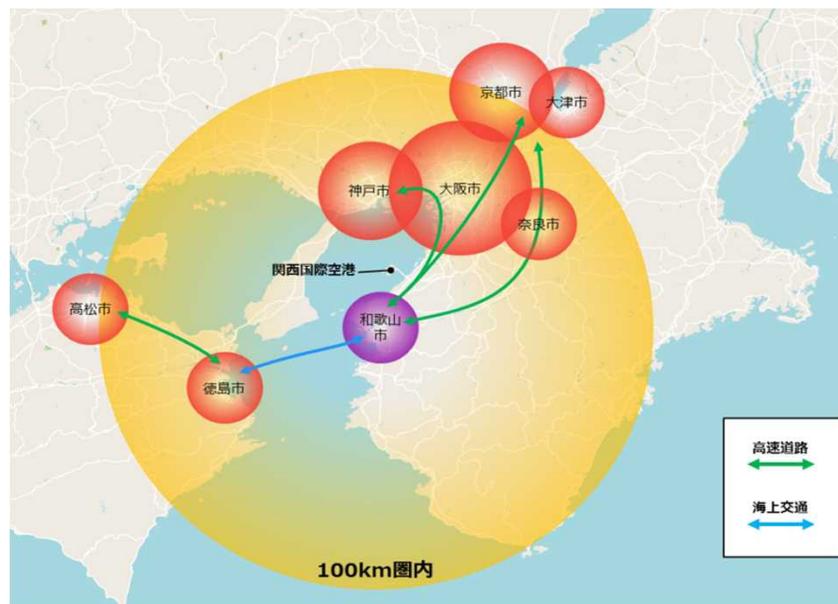
- 1 I R（統合型リゾート）とは
- 2 和歌山が目指すリゾート型 I R
- 3 **なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか**
- 4 I R による課題と対策
- 5 今後のスケジュール

なぜ、和歌山がI R誘致を目指すのか (世界・都市圏へのアクセスの良さ)

和歌山市は、関西国際空港から最も近い県都
(電車・車で約40分)

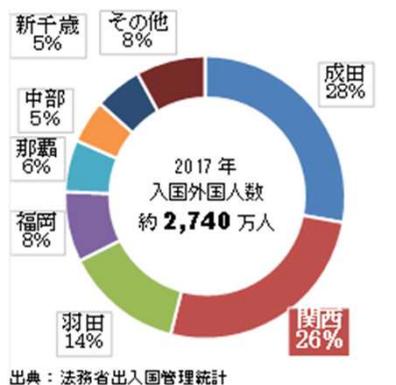


電車・自動車で大阪まで約60分、京都・神戸まで約90分という京阪神へのアクセスの良さ

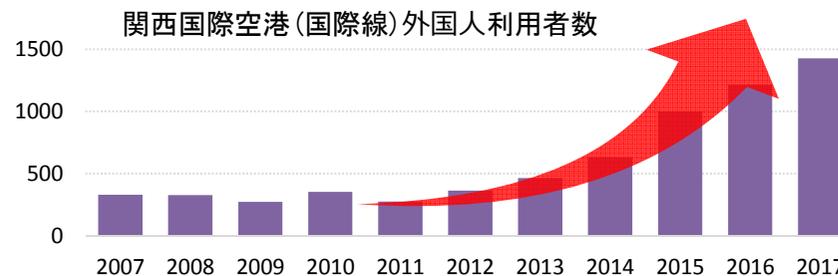


関西国際空港からの外国人入国者数は716万人で成田空港(764万人)に次いで2位
(2017年度)

訪日外国人観光客の4人に1人は関空から入国



2017年には第2ターミナル(国際線)が開業、さらなる増加が見込まれる
○離発着数は約18万回に上るが、未だ2倍以上の余力がある



なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか (豊富な観光資源と食資源)

文化

「ロンリープラネット」や「ミシュラングリーンガイド」といった世界的な旅行ガイドブックで高評価を得ている世界遺産「高野山・熊野」をはじめ文化遺産が豊富



食

四季を通じて旬のフルーツが楽しめる「果樹王国」であり、特に梅・みかん・桃・柿などは国内最高のブランドとして世界最高の品質を誇る



温泉

「にっぽんの温泉百選」に選ばれた白浜温泉や熊野本宮温泉郷など、日本有数の温泉地であり、近畿圏内では最も温泉資源が豊富



自然

滝、渓谷、海岸など、四季折々の魅力を持つすばらしい風景



なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか (多様なアクティビティ)

自然重視のアクティビティ観光が世界の旅行者のトレンドとなっている中、海岸線が長く、山に囲まれ、川が多い本県は、ほぼ**全ての体験型観光が可能**であり、コンテンツの多様性に溢れた非常にポテンシャルの高い地域である



片男波ビーチ



サーフィン



サイクリング



パラグライダー



セーリング



フライボード



クルージング



ウェイクボード



フィッシング



合気道



スポーツラフティング



クリフダイビング



フリークライミング



白良浜ビーチ



ダイビング



トレッキング



ホエールウォッチング

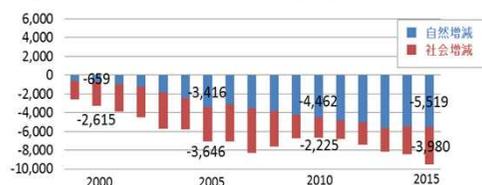
なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか (期待する効果)

雇用創出

1995年を境に、一貫して県人口の社会減が続く

- 高校生の県内就職率75%
- 大学生のUターン就職率41%

【和歌山県人口増減の推移】



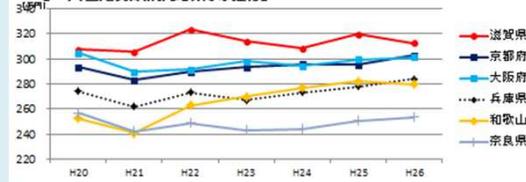
➔ 新たな雇用の場を創出することが必要

I Rは宿泊・交通・旅行・小売・アパレル・飲食・建築など、裾野の広い良質な雇用の場を創出することが可能

経済発展

- 県内総生産額：3兆5,267億円 (前年度比▲1.8%)
- H27年度県民所得：273万8千円/人 (前年度比▲3%)

【一人当たり県(府)民所得の推移】



➔ 県内産業が持続的に成長していくには、全ての産業が新たな市場を求めていくことが必要

I Rで消費される財やサービスを優先的に県内調達することで、地域経済の活性化に寄与

観光振興

- 2026年県内外国人宿泊客数の目標は170万人 (和歌山県長期総合計画)
- 関西国際空港に近いという好立地



➔ 近年増加している外国人観光客を本県に誘客し、県内観光産業をさらに発展させることができる

I Rは、観光の新たな1メニューとして、本県の既存観光資源との相乗効果により、観光立県和歌山の実現及び県内観光産業のさらなる発展に寄与

なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか (経済効果、雇用創出効果)

和歌山マリーナシティにIRを設置した場合の施設規模や集客人口を想定し、建設投資や運営等による経済波及効果及び雇用創出効果を算出

経済波及効果等の結果要約 (県内)

I R 来場者数	約400万人/年
建設投資額	約2,800億円
経済波及効果 (運営等)	約3,000億円/年
雇用創出効果 (運営等)	約2万人

参考：和歌山県の現状(平成27年度)

観光客総数	約3,340万人
県内総生産額	約3兆5,300億円



- I Rは、宿泊・交通・旅行・小売・アパレル・飲食・建築・金融システムなど裾野の広い良質な雇用の場を創出
- I Rで消費される財やサービスを優先的に県内調達することで、地域経済の活性化に寄与

なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか (経済効果、雇用創出効果)

●納付金について

カジノ行為粗収益の**15%**を認定都道府県等に対して納付

カジノ施設の売上高	1,401億円
認定都道府県等への納付金 (見込額)	210億円

※事業性分析に基づき県が試算。

<納付金の使途>

観光の振興、地域経済の振興、社会福祉の増進及び文化芸術の振興に関する施策等の経費に充てる。



●入場料について

日本人のカジノ利用者には施設入場時に、**6千円**の入場料が課される (国：3千円 県：**3千円**)

カジノ施設入場者数	2,311千人 (日本人 1,127 千人)
認定都道府県等入場料収入 (見込額)	34億円

※事業性分析に基づき県が試算。

<入場料収入の使途>

地域経済の振興、社会福祉の増進及び教育の振興に関する施策等の経費に充てる。



- 地理的、観光資源的にも外国人を受け入れる**もともとのポテンシャルが高い地域**
- 観光立県を目指す本県にとって、I Rは**とっておきの観光メニューの1つ**
- I Rの**もたらす経済波及効果は絶大**

- 1 I R（統合型リゾート）とは
- 2 和歌山が目指すリゾート型 I R
- 3 なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか
- 4 **I R による課題と対策**
- 5 今後のスケジュール

- ギャンブル依存症や破産リスクの増加
- 治安の悪化
- 反社会的勢力の介入
- マネーロンダリングの恐れ
- 未成年者への悪影響



IRによる課題と対策 (対策① ギャンブル依存症・破産リスク)



STOP! 問題ギャンブルのめりこみ

法律での規制に加え、県独自に依存症対策や破産リスクの回避、未成年者の保護等を検討し、事業者に対策を要請

本県独自の規制 (運用)

つかいすぎを防ぐ



①IRカードをつくる

②つかえる額の上限を設定

予防教育をします



小中学校・高等学校で「ギャンブルの危険性」を丁寧に教える

ドレスコードを設けます



サンダル・短パン等では入れません

問題ギャンブラー対応します



依存症対策専門員を置きます

「お声がけ」「退場をうながす」などの対応をします

入場回数を制限します 入場料を課します

マイナンバーカードを活用



7日に3回

28日に10回

6,000円/日

ATMを制限します



カジノ場内設置×

周辺貸付機能×

クレジットカードの利用を規制します



日本人は現金のみ使用可

入場させません



※本人・家族申告による

国による規制

I Rによる課題と対策 (対策② 生活環境の維持・未成年者保護)

安心してI Rを利用していただくためには、生活環境の維持・未成年者保護のための措置が必要

秩序維持

- 従業員の教育訓練
- 利用不適切者に対する
カジノ施設の利用禁止・制限
- カジノ施設内外における監視・警備等**
の実施



暴力団員等の入場禁止規制

- カジノ施設への**暴力団員等の**
入場禁止
- カジノ施設への全入場者に、
暴力団員等でない旨の確認



マネーロンダリング対策

- 取引時確認や取引記録の作成・保存
- 疑わしい取引の届出
- 一定額以上の現金取引の届出
- 内部管理体制の整備



未成年の入場禁止

- 未成年者は**カジノ施設への入場禁止**



未成年に対する広告・勧誘等の制限

- I R区域の内外にかかわらず、未成年者に対し**カジノ事業に関するビラ等の頒布や勧誘を禁止**
- カジノ事業・施設に関する広告・勧誘について、未成年者が**カジノ施設に入場できない旨の表示・説明義務**
- カジノ事業・施設に関する
広告・勧誘については、
未成年者に対する影響に配慮



I R誘致を推進し、その有用性を発信するなどの目的で設立された「和歌山I R推進協議会」(県・市、和歌山商工会議所)においても、克服すべき課題に対する本県独自の方策を検討

- 1 I R（統合型リゾート）とは
- 2 和歌山が目指すリゾート型 I R
- 3 なぜ、和歌山が I R 誘致を目指すのか
- 4 I R による課題と対策
- 5 今後のスケジュール

今後のスケジュール

国

県

2年以内

